

## 第五章 子供と家族を支える「地域力」

### ～ 地域関係機関の連携による支援 ～

#### 1 発達障害児と家族を支える各関係機関

教育・保健・医療・福祉・NPO 法人などの各関係機関の「地域力」（社会資源を結束した力）を活用し、それぞれの立場から、子供と家族を支えていきましょう。

発達障害児の支援に当たっている関係機関が連携し「地域力」を高めていくことが必要です。



## 2 どうしたら良いか迷った時は・・・



### 職場内の連携

- 担当者だけで抱え込まないようにしましょう。
- 組織内で問題を共有し、統一方針で子供と家族に支援しましょう。



### 外部関係機関との連携

- 組織として他の機関と連絡や協力をしましょう。
- 一つの職場（機関）だけで抱え込まないようにしましょう。
- 他の機関と連絡を取り、上手に支援を求めましょう。



### 豆コラム9 「この子、20歳になったらどうしているのかな？」

陸上競技のリレーでは、どの選手もより良い結果を目指して最善を尽くして走り、次の選手にバトンを渡します。そして、自分の役目を一旦終えた選手も、その後に続く選手たちがどのように走り、どのような結果になったかを見守ります。

このように、子供が、自分（現在の支援者）のところから次の段階（ライフステージ）に進んだ後、どのような現実や課題に直面し、それに対して次の支援者はどのように子供を支援してくれるのかに関心を持つことが大切と言えるでしょう。

また、自らの「支援の限界」を見極め、適切な時期に他の関係機関に支援を求め、きちんと「バトンタッチ」することも大切な支援です。

一瞬で結果が判明する陸上競技のリレーとは違い、「この子、20歳になったら、どうしているのかな？」といった「長期モニターの視点」が必要です。なぜなら、子育ては長い時間を要するものであり、その間を切れ目なく支援していく必要があるからです。

子供がより生きやすい豊かな人生を送ることができるよう、将来に備えた「今」の支援を考えることが大切です。



### 3 「3つの移行」とは

もう少し、  
知りたい方へ



#### ～ 「3つの移行」という考え方 ～

「移行」＝「今の段階ですること」＋「次の段階の準備をすること」

子供の成長過程では、「年齢的移行」「空間的移行」「技能的移行」という「3つの移行（移り変わり）」が生じます。子供はこれらの移行の中で、それぞれのステージでの発達課題を経験し、大人になります。（P30の図 参照）

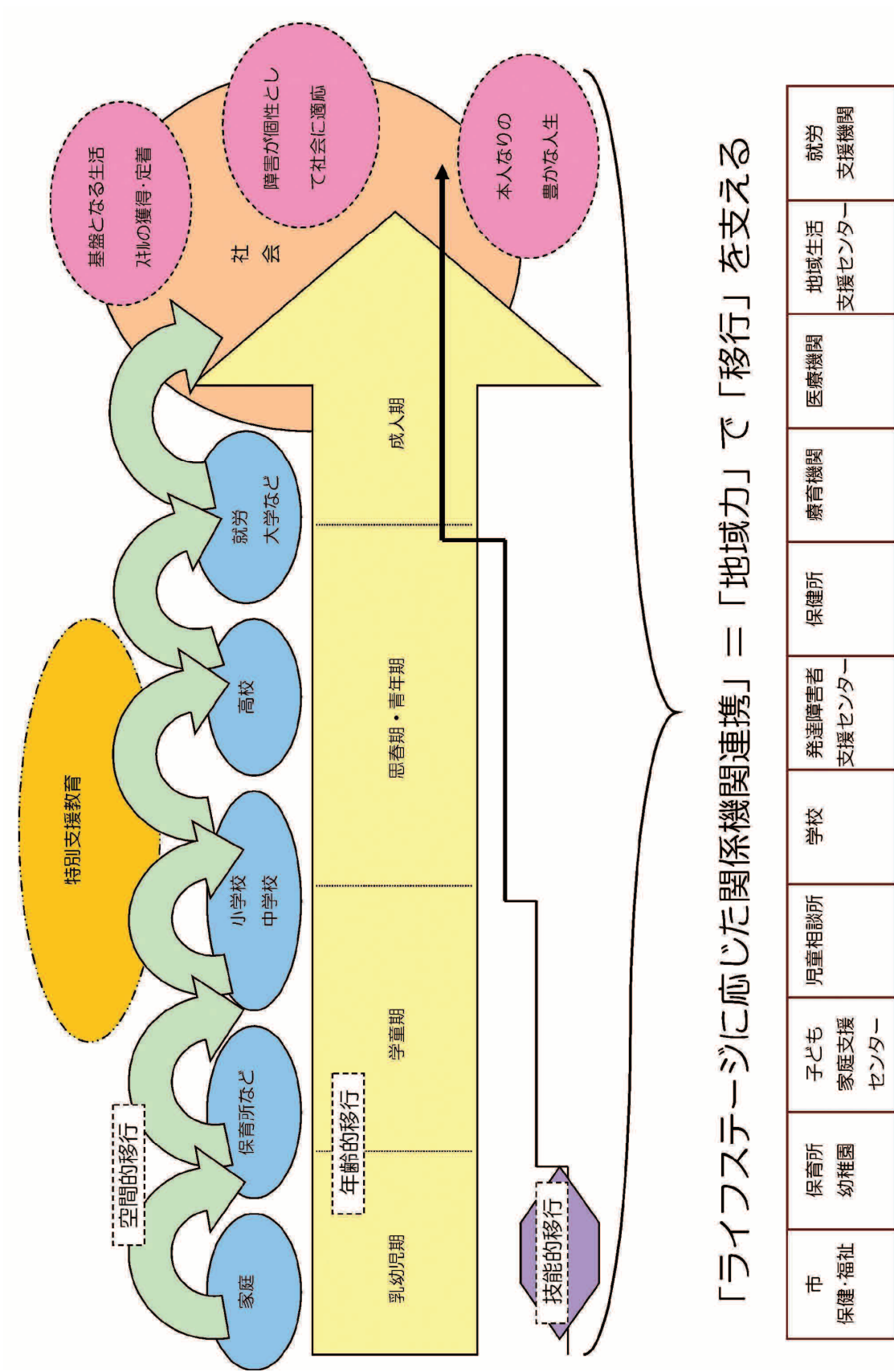
発達障害児の「3つの移行」が、スムーズに行われるためには、通常よりも多くの配慮と工夫が必要です。しかも、子供の脳の特徴（P11参照）を踏まえると、10歳以前の早期から行うのが最も効果的と言われています（P12参照）。

- 「年齢的移行」・・・できるだけその年齢に見合った活動や遊びができるように支援しながら、一方で、次の段階への移行の準備をしましょう。
- 「空間的移行」・・・次に所属する場に、なるべく戸惑わずに移れるよう準備しましょう。
  - 例1）保育園（幼稚園）のうちから、小学校に行く道のを歩いてみる。
  - 例2）学校見学会などの機会を利用して、実際に教室の中に入ってみる。
- 「技能的移行」・・・洗面や着替えなど、その年齢に見合った生活スキルや、文字の学習などの学習スキルを増やし、次の段階に見合ったスキルを身につけるよう準備しましょう。

また、現在、子供が「3つの移行」のどのステージにいるのかによって、直面する課題と必要とされる支援は違ってきます。しかも、「3つの移行」のどのステージにいるのかは、「移行」ごとに違う場合もあります。

そのため、日常的に多様な支援が得られる環境が、子供と家族にとっては理想的と言えるでしょう。

それに応えるには、支援機関・支援者（社会資源）の力を結束させた「地域力」がものを言います。そして、「地域力」を高めるには、支援機関・支援者どうしの「連携」が必要です。



「ライフステージに応じた関係機関連携」＝「地域力」で「移行」を支える

市 保健・福祉	保育所 幼稚園	子ども 家庭支援 センター	児童相談所	学校	発達障害者 支援センター	保健所	療育機関	医療機関	地域生活 支援センター	就労 支援機関
------------	------------	---------------------	-------	----	-----------------	-----	------	------	----------------	------------

～ ✕毛 ～

